

宮津市学校施設長寿命化計画（概要版）（令和5年3月）

第1章 学校施設長寿命化計画の背景・目的

（1）計画の背景及び目的

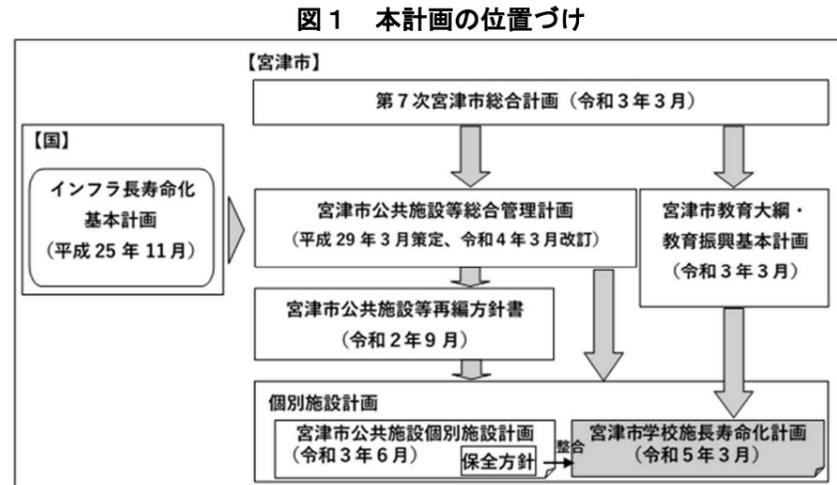
学校施設は、児童、生徒及び園児（以下「児童等」という。）の学習の場、生活の場であるとともに、地域の交流の場でもあり、さらには地震等の災害時における地域の避難拠点としての役割も担っています。

学校施設の約70%は1960年代から1990年代初めの児童等の数が多かった時期に建設されており、築30年以上を経過していることから老朽化が進みつつあります。さらに本市の人口及び児童等の数は減少傾向であり、施設整備にかかる経費を抑制した整備を計画・検討する必要があります。

本計画では、長寿命化の観点から中長期的な財政負担の低減及び平準化を図り、社会情勢の変化やニーズの多様化に配慮した今後の学校施設等の維持管理・更新等を市の整備方針に習い推進することを目指します。

（2）計画の位置づけ

「第7次宮津市総合計画（2021（令和3）年3月）」を上位計画として、各種計画と整合を図り策定します。



（3）計画期間と対象施設

計画期間は2023（令和5）年度から2032（令和14）年度の直近10年間、対象施設は下記のとおりです。

類型	学校名
幼稚園	宮津幼稚園、栗田幼稚園
小学校	宮津小学校、栗田小学校、吉津小学校、府中小学校、日置小学校、養老小学校
中学校	宮津中学校、栗田中学校

第2章 学校施設の目指すべき姿

（1）学校施設の目指すべき姿

子どもたちがいきいきと学び、安全安心に学校生活が送れる環境を整えるため、学校トイレの洋式化や校舎等の長寿命化などを進め、また、ICT環境の整備や個別最適な学びの場の実現に向けた教育環境の充実が図られる施設づくりを目指すべき姿とします。

就学前の教育・保育環境の充実

施設の老朽化対策の実施や、園児が安全で安心して園生活を過ごせるような施設整備を図り、教育・保育環境の充実を推進します。

学校教育環境の整備・充実

耐震化や空調機器整備学校施設等の施設整備、タブレット端末整備等のソフト面の充実のための整備を実施してきました。

今後の学校教育環境等の整備・充実

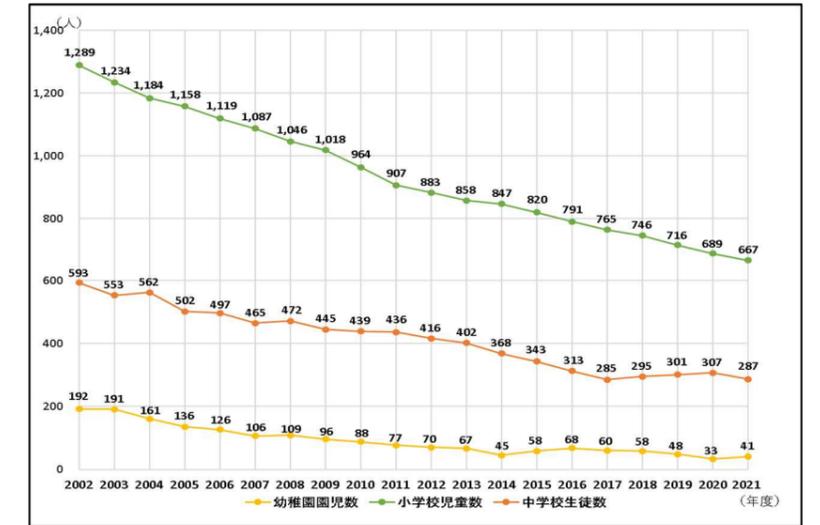
児童等が学校生活を安全で安心して過ごせる施設整備を行うとともに、長寿命化整備や更なるICT環境、個別最適な学びの場の充実に向けた施設整備を推進します。

第3章 学校施設の実態

（1）児童等数の推移

児童等の数については2002（平成14）年度と2021（令和3）年度の比較で半数以上減少しています。今後は極めて小規模な学校（園）については、統廃合の検討を行うことが必要です。

図2 児童等数の推移

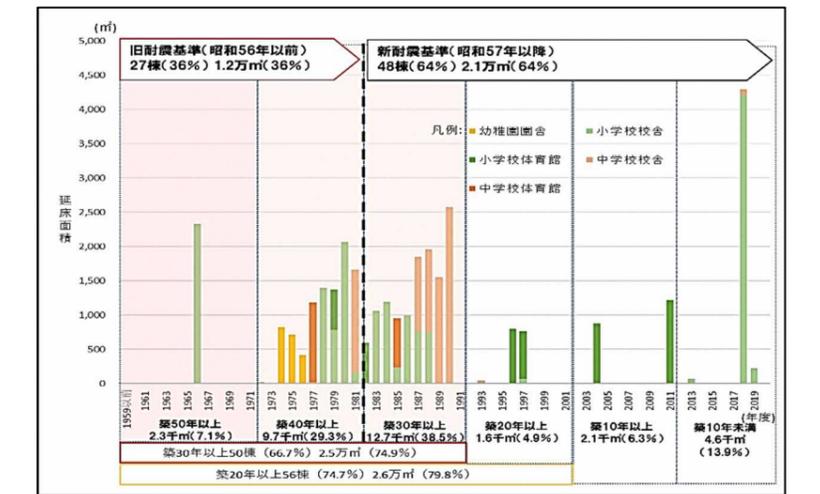


（2）築年別整備状況

本市の学校施設の多くは1970年代から1990（平成2）年までの間に整備されています。

築年数が30年以上の建物は延床面積割合で約75%、築年数が20年以上の建物は約80%となっています。整備時期が集中しており、かつ築年数が30年を超える施設が多いため、老朽化の進行により今後は改修や更新が必要な施設が集中的に生じる恐れがあります。

図3 築年別整備状況



（3）実態を踏まえた課題

学校施設の実態を踏まえた課題は以下の4点です。

1	児童等数の減少	現在でもクラス替えが難しい学校が存在する中、児童等の数は今後も減少が見込まれているため、統廃合等の検討を行っていくことが必要です。
2	学校施設の老朽化	施設整備時期が集中しており、かつ築年数が30年を超える施設が多いため、老朽化の進行により改修等が集中的に生じる恐れがあります。
3	維持・更新コスト	予算の制約を踏まえ、今後の各施設の生涯コストの最適化、施設維持に係る諸経費の削減、更新等の財源確保を検討することが必要です。
4	施設の機能整備	ICT教育や個別最適な学びを実現する教育環境、空調設備やトイレの洋式化、バリアフリー化など現代の生活環境に合った学校施設の機能充実を図っていくことが必要です。

宮津市学校施設長寿命化計画（概要版）（令和5年3月）

第4章 学校施設整備の基本的な方針等

（1）学校施設の規模・配置計画等の方針

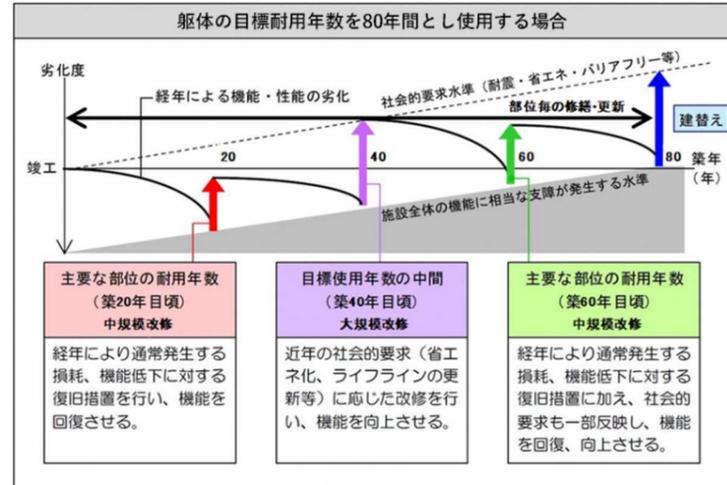
今後も児童等の数の減少は継続することが予想されるため、新たな未来予想に基づく学校施設の適正規模・配置についての議論を、保護者や地域の皆さんと深めていく必要があります。

（2）長寿命化対策の方針

公共施設等総合管理計画や宮津市公共施設再編方針書の考え方を踏まえ、さらには、宮津市公共施設個別施設計画の施設の保全方針に基づき、施設の中長期的なトータルコストの低減を図るため、施設の長寿命化を実施します。

長寿命化対象施設は構造等の条件を設定した上で選定し、後述する予防保全の一類型で、あらかじめ周期を決めて改修等を実施する「時間計画保全」の目標使用年数を80年に設定し実施します。

図4 長寿命化のイメージ



（3）改修等の基本的な方針

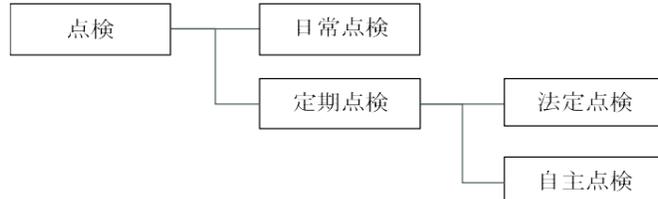
1) 予防保全の導入

学校施設を今後も長期間、安全・快適に使用するため、損傷が軽微である早期段階から予防的な修繕等を実施することで不具合を未然に防ぐ「予防保全」を導入します。

2) 点検の実施

学校施設の修繕等を進めていく際には、劣化状況や更新周期を参考に、日常点検や法定点検結果を活用しながら、保全の必要性や手法を判断します。

図5 点検の分類と位置づけ



3) 従来型（単純更新）の方針

長寿命化の条件に該当しない施設に関しても、法定耐用年数に応じた「時間計画保全」を実施します。

4) 部位修繕・部位更新の方針

施設の各部位についても、原則として周期を決めて修繕・更新を行う「時間計画保全」を実施します。

第5章 基本的な方針等を踏まえた施設の整備水準等

（1）改修等の整備水準

学校施設の目指すべき姿の実現のため、計画的な改修等を推進します。

改修等に当たっては、長寿命化対策やライフラインの更新等により建物の安全性・耐久性の向上や保全を実施しながら、教育環境向上（ICT設備の整備、個別最適な学びの場の実現等）、機能性・快適性向上（トイレの洋式化、バリアフリー化等）、環境等に配慮した持続可能な教育環境の整備（LED照明導入による省エネ化等）のような現代の社会的な要請等に応じた整備を進めます。

第6章 長寿命化の実施計画

（1）改修等の優先順位付け

劣化度、効率性を踏まえ、場合により将来の施設配置など更に条件を分け追加検討を行った上で、改修の優先順位を検討し、費用の算出と財源の確保を条件として計画的な整備を実施します。

（2）長寿命化コストの見通しと効果

今後40年間の維持・更新コストは、従来型で総額203.2億円（年平均5.1億円）、長寿命化型で総額202.7億円（年平均5.1億円）と試算され、長寿命化の効果として総額約0.5億円を見込む結果となりました。

図6 従来型（単純更新）

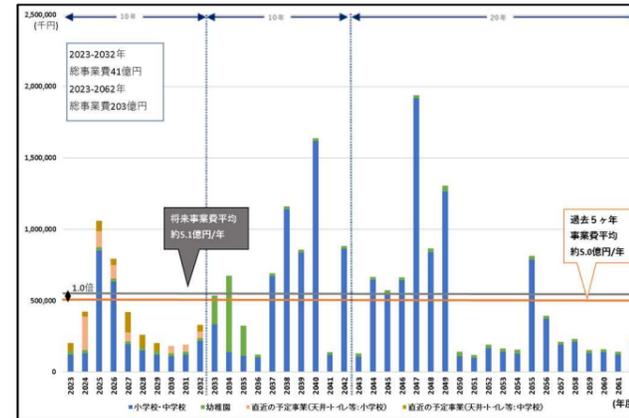
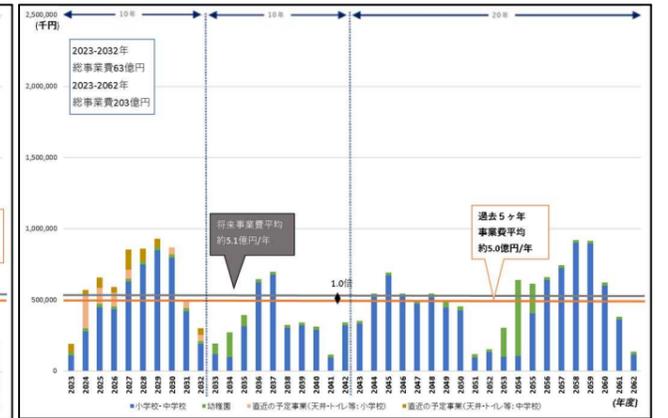


図7 長寿命化型（平準化後）



（3）長寿命化実施計画

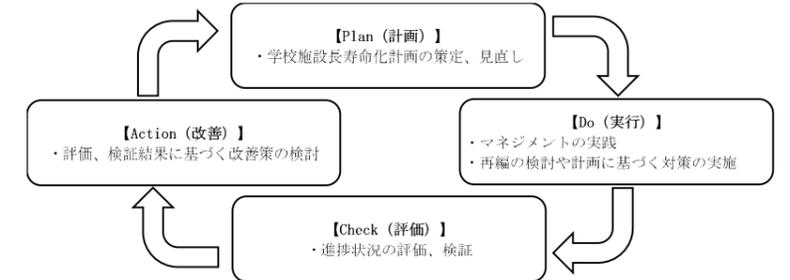
	長寿命化実施計画（短期計画）※別で定める「学校施設整備年次計画」に基づき、計画的に整備を進めます。
幼稚園	2つの幼稚園は、社会情勢等を考慮した上で必要に応じて対策を実施します。
小学校	体育館天井の非構造部材の耐震化、トイレの洋式化、特別教室への空調機器の設置、バリアフリー化など、機能向上や社会情勢の変化に基づいた改修を長寿命化改修とともに実施します。
中学校	非構造部材の耐震化、トイレの洋式化、特別教室への空調機器の設置、バリアフリー化など、機能向上や社会情勢の変化に基づいた改修を長寿命化改修とともに実施します。

第7章 長寿命化計画の継続的運用方針

（1）PDCAサイクルとフォローアップ

計画の見直しについては、5年程度ごとに行うことを基本としつつも、今後の財政収支や社会経済情勢の大きな変化、見直しが生じた場合にも、必要に応じて適宜見直しを行うこととします。

図8 PDCAサイクルイメージ



（2）情報基盤の整備と活用

維持管理項目の点検・調査結果や施設の状態、過去の改修の履歴等をデータベースとして蓄積し活用します。また、類似自治体等による先進的な取組事例等も情報収集し、学校施設運営の効率化等に努めます。

（3）推進体制

公共施設マネジメント庁内検討会議等と連携し、全庁的な視点を踏まえた施設マネジメントを推進します。